

1 年 次

令和3年度 年次別教育課程表

B 表

(表由)

教育局 渡島

市立函館高等学校

全日制課程

学科

普通科

学級数	第1学年	6
	第2学年	6
	第3学年	6

教科	科目・標準単位数 類型	学年		
		1年	2年	3年
国語	国語総合	4	4	
	国語表現	3		
	現代文A	2		
	現代文B	4	2	2
	古典A	2		2
	古典B	4	2~3	2~3
	○国語研究A	2	2	
	○国語研究B	2		2
	○国語教養	2		
	○作品講読	4	4	
地理歴史	世界史A	2	2	
	世界史B	4	4	4
	日本史A	2	2~4	
	日本史B	4	4	2~4
	地理A	2	2	
	地理B	4	2~4	2~4
公民	現代社会	2		2
	倫理	2		2
	政治・経済	2		2
	○社会教養	2		2
	○医療倫理	1		1
数学	数学I	3	3	
	数学II	4	4	4
	数学III	5		6~7
	数学A	2	2	
	数学B	2	2	2
	数学活用	2		
	○数学研究A	4		4
	○数学研究B	2		2
	○大学数学入門	1		
理科	科学と人間生活	2		2
	物理基礎	2	2	
	物理	4	3	2
	化学基礎	2	2	
	化学	4	2	3
	生物基礎	2	2	2
	生物	4	3	2
	地学基礎	2	2	
	地学	4		
	理科課題研究	1		
	○物理研究	2		2
	○化学研究	2		2
	○生物研究	2		2
	○地学研究	2		2
保健体育	体育	7~8	2	3
	保健	2	1	1
	○スポーツ、専科	2		2

## B 表

## 表四

教育局 渡島		市立函館高等学校		全日制課程	学科	普通科
教科	科目・標準単位数 類型	学年		1年	2年	3年
芸術	音楽 I	2	2			
	音楽 II	2			2	
	音楽 III	2				
	美術 I	2	2	2		
	美術 II	2			2	
	美術 III	2				
	工芸 I	2				
	工芸 II	2				
	工芸 III	2				
	書道 I	2	2			
外國語	書道 II	2			2	
	書道 III	2				
	○ 音楽教養	2				2
	○ 美術教養	2				2
	○ 書道教養	2				2
	○ 音楽専科	2				2
	○ 美術専科	2				2
	○ 書道専科	2				2
	コミュニケーション英語基礎	2				
	コミュニケーション英語 I	3	3			
家庭	コミュニケーション英語 II	4			4	
	コミュニケーション英語 III	4				4
	英語表現 I	2	2			
	英語表現 II	4			2	2
	英語会話	2				2
	○ 英語研究 A	2			2	
	○ 英語研究 B	2				2
	○ 実用英語	2			2	
	○ 医療英語	1				1
	○ 中国語	2				2
情報	○ ロシア語	2				2
	○ ハングル	2				2
社会	家庭基礎	2	2			
	家庭総合	4				
	生活デザイン	4				
	社会と情報	2	2			
	情報の科学	2				
情報	子どもの発達と保育	2~6				2
	○ 情報機器概論	1				1
	○ 函館学	1	1~2	1		1
各学科に共通する各教科・科目の計		29		29		26~29
主として専門学科において開設される各教科・科目の計		1~2		0~1		0~3
総合的な探究の時間 (総合的な探究の時間)		3~6	1	1		1
合 計		31~32		30~31		30~31
特別活動	ホームルーム活動		1	1		1
備考		<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立はこだて未来大学における学修を履修した者は、学校設定科目「情報機器概論」の単位を認定する。</li> <li>・2年次地理歴史の選択において、日本史A・日本史B・地理A・地理Bから必ず1科目を選択する。</li> <li>・2年次で地理Bまたは日本史Bを2単位で履修する者は、3年次においても連続して同名科目を履修しなければならない。</li> <li>・3年次で数学IIIを履修する者は、2年次で数学IIを履修した後、履修することとする。</li> <li>・2年次理科の選択において、化学基礎・地学基礎から必ず1科目を選択する。</li> <li>・2年次において芸術のIIを付した科目は、1年次で同名のIを付した科目を履修していないければ選択できない。</li> <li>・3年次公民の選択において、政治経済と倫理の両方を選択しない生徒は必ず現代社会を選択する。</li> <li>・3年次数学の選択のうち、数学研究Aと数学研究B及び数学Bを同時に履修することはできない。</li> <li>・2年次で化学を履修する者は、2年次の前期で化学基礎を履修した後、後期に化学を履修することとする。</li> <li>・2年次で物理・生物・化学を履修する者は、3年次においても連続して同名科目を履修しなければならない。</li> <li>・函館学は1年次1単位は必履修とする。これに加えて、最大2単位まで修得を認める。</li> <li>・音楽・美術・書道教養および音楽・美術・書道専科については履修条件はない。</li> </ul>				

注 用紙の大きさは、日本産業規格A4列4番縦型とする。

# 2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任							
国語	国語総合 (現代文編)	2	1年次				佐々木千春、高橋衣津美							
使用教科書	新 探求国語総合 現代文・表現編 (桐原書店)				使用副教材	新探求国語総合 準拠予習復習ノート 現代文編 (桐原書店) 新版完全征服 頻出入試漢字コア 2800 (桐原書店) 評論速読トレーニング 700 (教研出版) プレミアムカラー 国語便覧 (教研出版) プレミアムカラー 国語便覧 準拠ワーク (教研出版)								
<b>科目の目標</b>										道徳教育のねらい				
国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。										人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。				
<b>市函DP(本校で身に付けさせたい10の資質・能力)</b>														
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・ 自己管理力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力			
1	現代文 隨筆	○	◎	○	○	○	○			○	○			
2	現代文 評論	○	◎	○	○	○	○			◎	◎			
3	現代文 小説	○	◎	○	○	○	◎			○				
4	現代文 詩歌	○	◎	○	○	○	◎		◎	○				
5	現代文 表現	○	◎	○	◎	◎	○		◎	○	○			
6	現代文 文学史	◎						◎						
7	現代文 語彙	◎						◎						
評価の観点		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解								
		国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、また、的確に聞き取ったり話しあったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。								
評価の方法		次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。												
		活動の観察① (授業に対する取り組みの姿勢全般)	活動の観察② (グループ学習時の発表内容や人の意見を聞く態度)	記述の確認及び分析 (ノート、ワークシート、原稿用紙等)	定期考査に対する取り組み (ノート、ワークシート、原稿用紙等)	小テストや課題確認テストに対する取り組み (ノート、ワークシート、原稿用紙等)	週末課題や長期休業中の課題に対する取り組み (ノート、ワークシート、原稿用紙等)	対する取り組み姿勢と結果	対する取り組み姿勢と結果	対する取り組み姿勢と結果	対する取り組み姿勢と結果			
		関心・意欲・態度	◎	○	○	○	○	○	○	○				
		話す・聞く能力	○	◎	○	○	○			○				
		書く能力			○	○				○				
		読む能力			○	○				○				
		知識・理解				○	○			○				

# 授業計画

授業計画					実施状況	
月(時数)	単元・考査等(配当時数)	学習のねらい	学習内容(配当時間)		単元実施時数	実施反省
前期	4 オリエンテーション 工夫して聞く	2 ・国語総合の学びの目的と学習の概要を理解する。 ・話すことと聞くことの関わりを理解する。	授業について ※話すこと聞くこと体験 【言語活動】	1 1		
	5 文の中心を読み取る① (論理的&文学的な文章・随筆)	3 ・筆者の考え(伝えたいこと)を読み取ることができる。 ・文の中心となる単語、一文を抜き出すことができる。	I『旅する力』 II『ふしげと人生』 ※速読トレーニング(一年を通じ)	1 1 1		
	6 工夫して話す(GWあけ)	1 ・スピーチの構成を考えることができる。 ・自分について考えることができる。	※1分間スピーチ 【言語活動】	1		
	7 文の中心を読み取る② (文学的な文章・小説)	7 ・筆者の考え(伝えたいこと)を読み取ることができる。 ・描写に注目して登場人物の心情の変化を読み取ることができる。	I ◎『羅生門』 II『神様』	5 2		
	8 文の中心を読み取る③ (論理的な文章・評論)	7 ・対比構造を理解することができる。(I、II) ・筆者の考えを踏まえ、自分の考えをまとめることができる。(III)	I ◎『サイボーグとクローン人間』《科学》 II『水の東西』《文化》 III『美しさの発見』《芸術》 ※自分の考えをもち、表現できる【言語活動】	4 1 1 1		
	9 ※要約① (論理的&実用的な文章・評論)	4 ・文章の内容を100字で要約できる。 ・具体的例の働きをつかむことができる。	I「天声人語」・「Number」 II「マヨネーズの穴から」 【言語活動】	2 2		
	10 言葉による見方・考え方① (文学的な文章・詩)	5 ・「つなげる」「見立てる」「たとえる」を意識して、作者の伝えたいことを読み取ることができる。 ・文学史、詩の特性についての知識を身につけることができる。	I「二十億光年の孤独」 II「崖」III「激動するもの」 (文学史のみ:「サークス」、「るるる葬送」、「雪」) ※詩の創作 【言語活動】	2 1 2		
	11 前中期中間考査(6月)	1				
	12 前中期期末考査(9月)	1				
	計 31					
後期	10 工夫して書く (※小論文基礎)	4 ・論述に基づいて自分の考えを文章にまとめることができる。 ・原稿用紙の使い方、文の作り、構成を意識して書くことができる。	I『言葉の力』《言語・文学》 II『経済の論理／環境の倫理』 《経済・環境》	2 2		
	11 文の中心を読み取る④ (文学的な文章・小説)	6 ・筆者の考え(伝えたいこと)を読み取ることができる。 ・描写に注目して登場人物の心情の変化を読み取ることができる。	I ◎『夢十夜』 II『海の方の子』	4 2		
	12 文の中心を読み取る⑤ (論理的な文章・評論)	6 ・具体的例の働きを理解することができる。(I) ・筆者の考えを踏まえ、自分の考えをまとめることができる。(II)	I ◎『わからうとする姿勢』《コミュニケーション》 II『なぜ、多様性が必要か』《生物》 ※ミニ論文 【言語活動】	3 2 1		
	13 言葉による見方・考え方② (文学的な文章・短歌と俳句)	4 ・「つなげる」「見立てる」「たとえる」を意識して、作者の伝えたいことを読み取ることができる。(I、II) 短歌や俳句の特色に気づき日本の伝統的言語文化に関心を広げることができる。(I、II)	I 短歌十二首 II 俳句十二句	2 2		
	14 後期中間考査(11月)	1 ・「つなげる」「見立てる」「たとえる」を意識して自分の思いを表現することができる。※言語活動	※俳句の創作 【言語活動】(冬課題)			
	15 構成を意識して読み取る① (論理的な文章・評論)	8 ・キーワードと構成に注目し、文章の内容を的確に読み取ることができる。 ・これまでの自分のものの見方や考え方を振り返ることができる。	I『宇宙樹』《自然》 II『歴史は「今・ここ・私」に向かってはいない』《歴史》	4 4		
	16 構成を意識して読み取る② (文学的な文章・小説)	7 ・構成を意識して、筆者の考え(伝えたいこと)を読み取ることができる。(I) ・一人称小説の「語り」に注目して読みができる。(II)	I ◎『富嶽百景』 II『石を愛する人』	5 2		
	17 後期期末考査(2月)	1				
	18 ※要約② (要約・小論文基礎)	2 ・文章の内容を200字で要約できる。 ・原稿用紙の使い方、文の作り、構成を意識して書くことができる。	I「紫外線」 II「アラビア語を学ぶ」 【言語活動】	1 1		
	計 39					

# 2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任									
国語	国語総合 (古典編)	2	1年次				佐々木千春・高橋衣津美									
使用教科書	新 探求国語総合 古典編 (桐原書店)				使用副教材		新探求国語総合導入予習復習ノート 古典編 新精選古典文法改訂版 新精選古典文法導入ノート 精選 古文単語300 PLUS 必携 句法と語彙と一緒に学ぶ新明解漢文ノート 復刊版 必携 句法と語彙と一緒に学ぶ新明解漢文ノート 復刊版 プレミアムカラー国語便覧 プレミアムカラー国語便覧 準備ワーク									
科目の目標									道德教育のねらい							
国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。									人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。							
学習活動内容			市函DP(本校で身に付けさせたい10の資質・能力)													
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
1 古文説話	◎						○									
9 古文隨筆					○		◎									
2 古文物語				○			◎									
3 古文日記				◎			○									
4 古文和歌		○							◎							
5 古文文法	○										◎					
6 漢文小話					○					◎						
7 漢文史伝		◎					○									
8 漢文思想					◎					○						
9 漢文文章				○			◎									
10 漢文漢詩	○		◎													
11 漢文句法	○										◎					
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解											
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、また、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取り目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。											
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。															
	活動の観察①(授業に対する取り組みの姿勢全般)	活動の観察②(グループ学習時の発表内容や人の意見を聞く態度)	記述の確認及び分析(ノート、ワーク)	定期考査(ノート、ワーク)	定期考査に対する取り組み(姿勢と結果)	定期考査に対する取り組み(姿勢と結果)	小テストや課題確認テスト	週末課題や長期休業中の課題に対する取り組み	課題に対する取り組み姿勢と結果	課題に対する取り組み姿勢と成果						
	関心・意欲・態度	◎								○						
	話す・聞く能力		◎													
	書く能力			◎		○										
	読む能力	◎				◎										
	知識・理解					◎	◎									

# 授業計画

授業計画				実施状況		
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4	古文入門 ・古文：児のそら寝（2） ・古文：檢非追使忠明のこと（4）	○古文：歴史的仮名遣いを理解する。 ○古文：動詞の活用の種類と基本形を理解する。 □親しみやすい説話作品に触れ、古典の面白さを味わう。	歴史的仮名遣い・文節・単語と品詞（2） 用言の活用（動詞）（3） 演習と単元テスト（1）	6 6	
	5	漢文入門①・故事成語① ・漢文：漢文の基礎①（3） ・漢文：推敲（2）	○漢文：漢文の構造を理解する。 ○漢文：返り点のはたらきを理解する。 □故事成語の意味を学ぶ。	漢文の構造と6文型（3） 訓説・書き下し文・返読文字（2）	5 11	
	6	隨筆① ・古文：つれづれなるまことに（3）	○古文：係り結びを理解する。 □現代との違いを確認してその世界観を味わう。	係り結び（1） 現代語訳と内容理解（2）	1	
		漢文入門② ・漢文：漢文の基礎（3）	○漢文：置き字を理解する。 ○漢文：再読文字を理解する。	置き字（1） 再読文字（2）	6 18	
	7	説話① ・古文：大江山（3）	○古文：形容詞を理解する。 ○古文：和歌の構造を理解する。 □和歌を味わう。	用言の活用（形容詞）（1） 和歌と修辞法（2）		
		説話② ・古文：盜人の正体（3）	○古文：形容動詞を理解する。 ○古文：助詞「ば」の用法を理解する。 □説話に親しむ。	用言の活用（形容動詞）（1） 助詞「ば」の用法（1） 単元テスト（1）	6 24	
	8	文章 ・漢文：雜説（3）	○漢文：部分否定を理解する。 □韓愈の文章に親しむ。	否定（2） 現代語訳と内容理解（1）		
		・漢文：鷄口牛後（3）	○漢文：使役形・比較形・選択形を理解する。 □人物、情景、心情を読み味わう。	使役・比較・選択（2） 現代語訳と内容理解（1）	6 30	
	9	◎前期期末考査（1）			1	
		物語 ・古文：なよ竹のかぐや姫（7）	○古文：助動詞のはたらきを理解する。 ○古文：助動詞「けり」を理解する。 ○古文：音便を理解する。 □人物の心情を理解する。	助動詞の種類とそれぞれの働きについて（5） 過去の助動詞「けり」（1） 音便（1）		
後 期		日記① ・古文：円出（3）	○古文：助動詞「なり」を理解する。 □日記文学への興味関心を広げる。	断定の助動詞「なり」（1） 演習と単元テスト（2）	10 41	
	10	日記② ・古文：芥川（5）	○古文：助詞「の」「さへ」を理解する。 ○古文：助詞「なむ」の異別を理解する。 □日記文学の表現の特色を理解する。	助詞「の」「さへ」の用法（1） 助詞「なむ」の用法（1） 用言と助動詞の確認（1） 和歌と修辞法（2）	5 46	
	11	◎後期中期考査（1）			1	
		詩文① ・漢文：絶句（3）	○漢文：漢詩の規則を理解する。 ○漢文：押韻を理解する。 □韻律や独特の世界観を味わう。	漢詩の規則（2） 押韻（1）		
		詩文② ・漢文：送友人（2）	○漢文：対句を理解する。 □詩文に親しみ、著者の心情を理解する。	対句（1） 現代語訳と内容理解（1）	5 52	
後 期	12	日記③ ・古文：東下り（3）	○古文：「し」の識別を理解する。 ○古文：「に」の識別を理解する。 □人物の心情を理解し、和歌に親しむ。	「し」の識別（1） 「に」の識別（1） 和歌と修辞法（1）		
		隨筆② ・古文：丹波に出雲といふ所あり（3）	○古文：助動詞「たり」を理解する。 ○古文：助詞「ばや」を理解する。 □隨筆の世界観を味わう。	完了の助動詞「たり」（2） 助詞「ばや」（1）	6 58	
	1	故事成語② ・漢文：漁夫之利（3）	○漢文：音便化した仮定形を理解する。 □心情を表現に即して味わう。	仮定形（2） 訓説・書き下し文（1）		
		故事成語③ ・漢文：塞翁馬（3）	○漢文：反語形を理解する。 □筆者の心情を理解する。	反語形（1） 「A[スル]コトB」の形（1） 訓説・書き下し文（1）	6 64	
	2	◎後期期末考査（1）			1	
		和歌① ・古文：万葉集（3）	○古文：係助詞の文末用法を理解する。 □筆者の心情を理解する。	係助詞の用法（1） 鑑賞と内容理解（2）	3 68	
	3	和歌② ・古文：新古今和歌集（2）	○古文：「もぞ」の構成を理解する。 □筆者の心情を理解する。	「もぞ」の用法（1） 鑑賞と内容理解（1）	2 70	

2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任
地理歴史	世界史A	2	1年次	上村、榎原、鈴木司
使用教科書	世界の歴史 改訂版(山川出版社)		使用副教材	ニュースステージ世界史詳覧(浜島書店) 改訂版 世界の歴史ワークノート(山川出版社)
科目の目標				道徳教育のねらい
近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				歴史的現象を通じ、道徳心を養い、さらに道徳的実践力育む。

学習活動内容	市函D P (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)									
	1 基礎力	2 思考力	3 主体的 学習力	4 傾聴力	5 自己理解・ 自己管理力	6 他者 理解力	7 計画 実行力	8 発信・ 表現力	9 ストレス コントロール力	10 実践力
1 世界史へのいざない	○	○	○	○		○		○		
2 序 人類の歴史の始まり	○	○	○							
3 第1部 世界の一体化と日本	○	○	○					○		○
4 第1章 世界の諸文明	○	○	○					○		○
5 第2章 世界の一体化の始まり	○	○	○					○		○
6 第3章 近代の世界	○	○	○					○		○
7 第2部 地球社会と日本										
8 第1章 現代の始まりと帝国主義	○	○	○					○		○
9 第2章 二つの世界大戦	○	○	○					○		○
10 第3章 平和と冷戦	○	○	○					○		○
11 第4章 現代世界と日本	○	○	○					○		○
12 グループワーク		○	○	◎	○	◎		◎	○	○
13 課題提出			○	◎		○	○		◎	○
14 考査	○	○					○	○		

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と意識を高め、国際社会に主体的に生きる一員としての姿勢を培う。	近現代史を中心とする世界の歴史から、因果関係や課題を発見し、多角的・客観的に考察し、中立的な判断力とそれを客観的に表現する力を養う。	近現代史を中心とする世界の歴史に関し、情報の収集・分析・精査する力を養い、それを活用する技能を身につける。	近現代史を中心とする世界の歴史について、基礎的知識の定着を図り、国際関係を理解し、身につける。
評価の方法	小テストや課題、ノートや授業中の発表・発言、討議などに取り組む姿勢から、意欲的に取り組んだかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、因果関係や課題を発見し、多角的・客観的に考察し、中立的な判断力とそれを客観的に表現できるかどうかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、情報の収集・分析・精査する力を活用できるかどうかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、基本的な事柄を理解し、知識を身に付けているかどうかを評価する。

# 世界史A 授業計画

学習指導計画				実施状況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	4月 世界史へのいざない(1.5)	・身近なものや日本史との関連から世界史に興味を持たせる。	①自然環境と歴史・②日本列島の中の世界史(1.5)		
	序 人類の歴史の始まり(0.5)	・文明の発展過程を理解させる。	人類の進化・文明の誕生(0.5)		
	第1部 世界の一体化と日本 第1章 世界の諸文明(6.5)	・各地域の歴史の概要を理解し、各文明の特徴を自然環境や宗教などと関連付けて考察させる。 ・地図を活用し、古代文明について説明できるようにする。	1東アジア世界 I・2東アジア世界 II・3東アジア世界 III(1) 4南アジア世界・5東南アジア世界(1) 6西アジア世界 I・7西アジア世界 II・8西アジア世界 III(1) 9古代地中海世界・10ヨーロッパ世界 I (2) 11ヨーロッパ世界 II(1.5) 12 16世紀の世界と一体化の始まり(0.5) 13 明代の東アジア・14清代の東アジア(1) 15 サファヴィー朝とムガル帝国・16オスマン帝国(1) 17 大航海時代とアメリカ征服(1) 18 新しい時代の始まりとルネサンス(1) 19 宗教改革(1) 20 スペインの時代からオランダの時代へ(1)		
	5月 第2章 世界の一体化の始まり(10.5)	・世界の一体化が進んだ背景と過程を理解し、その影響を考察させる。 ・様々な資料をもとに、当時の人々の世界観や価値観を読み取れるようにする。	21 16世紀の世界と一体化の始まり(0.5) 22 東ヨーロッパの専制(1) 23 大西洋経済(1) 24 啓蒙とアメリカ独立(1) 25 フランス革命(1.5) 26 ナポレオンとその帝国(1) 27 イギリス産業革命(1) 28 ウィーン体制と自由主義改革(1) 29 1848年革命とイギリス・フランス(1) 30 クリミア戦争とオーストリア・ロシア(1) 31 イタリアの統一とドイツの統一(1.5) 32 アメリカ合衆国の発展とカナダ(1) 33 ラテンアメリカと世界資本主義(1) 34 19世紀の西アジア(1) 35 南アジア・東南アジアの植民地化(1) 36 東アジアの開港と変動(1) 37 東アジアの近代化の試み(1)		前
	6月 前期中間考査(1)				前
	7月 第3章 近代の世界(15)	・ヨーロッパの近代化の背景と過程を理解し、その影響について考察させる。			期
	8月	・国民主義や自由主義の成立過程と特徴を複数の視点から理解しまとめさせる。			
	9月 前期期末考査(1)	・地図を活用し、どのような地域で植民地化が進んだかを説明できるようにさせる。 ・日本の近代化が、どのような背景の中で進んだのかを世界史と関連付けて考察させる。	38 資本主義社会の成熟(0.5) 39 世界分割と一体化の進展(1) 40 帝国主義の国際対立(2) 41 植民地・従属国での民衆の抵抗(1) 42 日露戦争と韓国併合(1) 43 辛亥革命(1) 44 第一次世界大戦(1.5) 45 ロシア革命(1.5) 46 ヴェルサイユ体制とワシントン体制(1.5) 47 1920年代のアメリカとヨーロッパ(1) 48 アジア諸地域の抵抗と独立(1) 49 東アジアの民族運動(1) 50 世界恐慌(1.5) 51 ファシズムの台頭(1.5) 52 第二次世界大戦前夜の世界(1) 53 滿州事変と日中戦争(1) 54 第二次世界大戦 I (1) 55 第二次世界大戦 II (1) 56 冷戦の開始(1.5) 57 冷戦の激化と核戦争の危機(1) 58 第三世界の出現(1.5) 59 米・ソの動搖と多極化する世界(1) 60 冷戦の終結・61 グローバル化とアメリカ(1) 62 EUの拡充とロシア、アフリカ(1) 63 中東情勢とイスラーム主義運動(1) 64 アジアの経済発展・65 中国の台頭と多極化(1.5) 66 地球社会の今後と私たち・主題学習(1.5)		
	10月 第2部 地球社会と日本 第1章 現代の始まりと帝国主義(6.5)	・帝国主義の成立背景を経済的側面から理解し、その影響を考察させる。			
後期	11月 第2章 二つの世界大戦(14.5)	・二つの世界大戦が起こった背景を理解し、影響を考察させる。			
	12月 後期中間考査(1)	・地図や資料をもとに、当時の東アジア情勢を理解させ、日本の外交政策の変遷について考察させる。	50 世界恐慌(1.5) 51 ファシズムの台頭(1.5) 52 第二次世界大戦前夜の世界(1) 53 滿州事変と日中戦争(1) 54 第二次世界大戦 I (1) 55 第二次世界大戦 II (1) 56 冷戦の開始(1.5) 57 冷戦の激化と核戦争の危機(1) 58 第三世界の出現(1.5) 59 米・ソの動搖と多極化する世界(1) 60 冷戦の終結・61 グローバル化とアメリカ(1) 62 EUの拡充とロシア、アフリカ(1) 63 中東情勢とイスラーム主義運動(1) 64 アジアの経済発展・65 中国の台頭と多極化(1.5) 66 地球社会の今後と私たち・主題学習(1.5)		後期
	1月 第3章 平和と冷戦(4)	・冷戦について理解し、世界大戦後の世界情勢を地図などを用いて説明できるようにする。			
	2月 第4章 現代世界と日本(7)	・冷戦の終結とグローバル化の関係について理解させる。			
	3月 後期期末考査(1)	・現代世界の課題を見出し、解決策について考察し、説明できるようにする。			

# 2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース		教科担任							
数学	数学ⅠA	5	1年次		加藤真司・加藤経行・青沼宏・照井広志							
使用教科書	数研出版 「改訂版 高等学校 数学Ⅰ」 数研出版 「改訂版 高等学校 数学A」		使用副教材		数研出版「4プロセス 数学Ⅰ 数学A 完成ノート」 数研出版「チャート式改訂版基礎からの数学Ⅰ+A」							
科目の目標							道德教育のねらい					
「数と式」、「2次関数」、「図形と計量」、「データの分析」、「場合の数と確率」、「図形の性質」、「整数の性質」について理解させ基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようになるとともに、それらを活用する態度を育てる。2クラス3展開の少人数編成の授業により、きめ細かな指導を行う。日常の課題、単元テスト等の取り組みを徹底し、基礎基本の定着を図ると共に、応用問題に取り組む姿勢を養う。							数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度や、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てることで、また、生徒が事象を数理的に考察し、道筋を立てて考え、表現する能力を高めることで、道徳的判断力を養う。					
学習活動内容			市函DP(本校で身に付けさせたい10の資質・能力)									
			1 基礎力	2 思考・分析力	3 主体的学習力	4 傾聴力	5 自己認知・肯定力	6 他者理解力	7 発信・表現力	8 計画実行力	9 ストレス対応力	10 問題解決・創造力
1 式の計算	◎	○	○	○				○				
2 実数	○	○	○	○				○				
3 1次不等式	○	○	○	○				○				
4 2次関数とグラフ	◎	○	○	◎				◎				
5 2次関数の値の変化	○	◎	○	○				◎				
6 2次方程式と2次不等式	○	◎	○	○				○				
7 集合と命題	○	◎	○	○				○				
8 案件の数	◎	○	○	○				○				
9 確率	○	◎	○	○				○				
10 平面図形	○	○	○	◎				○				
11 空間図形	○	○	○	◎				○				
12 三角比	○	◎	○	○				○				
13 三角形への応用	○	○	◎	○				○				
14 約数と倍数	○	○	○	○				○				
15 ユークリッドの互除法	○	◎	○	○				○		○		
16 整数の性質の活用	○	◎	○	○				○				
17 データの分析	○	○	○	○				○			◎	
18 グループワーク		○	○	○	○	○	◎	◎		○	○	
19 課題学習			○	○	○	○	○	◎	○	○		
20 課題提出	○	○	◎			○			○	○	○	
21 考査	○	○						◎	○			
評価の観点	関心・意欲・態度		数学的な見方や考え方			数学的な技能			知識・理解			
	数学的活動を通して、各単元における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。		数学的活動を通して、各単元における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。			数学的活動を通して、各単元において、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけ、的確に問題を解決できる。			数学的活動を通して、各単元における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。											
	授業での取組		課題への取組		定期考査		単元テスト		課題確認テスト		他の資料	
	関心・意欲・態度		○ ○				○ ○		○ ○		○ ○	
	数学的な見方や考え方		○ ○		○ ○		○ ○		○ ○		○ ○	
	数学的な技能		○ ○		○ ○		○ ○		○ ○		○ ○	
	知識・理解		○ ○		○ ○		○ ○		○ ○		○ ○	

# 数学ⅠA 授業計画

授業計画					実施状況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	4	数学Ⅰ 第1章 数と式 5月中旬に単元テスト	整式や実数など中学で学んできた内容を整理し、高等学校の数学の基礎となる知識および計算力を習得する。	第1節 式の計算 (8) 第2節 実数 (5) 第3節 1次不等式 (6)	19	
	6	数学Ⅰ 第2章 2次関数 6月初旬に前期中間考査	中学校における関数の学習を踏まえ、一般的の2次関数 $y=ax^2+bx+c$ およびそのグラフの性質について理解し、グラフを書くことができるようにする。また、2次関数のグラフとx軸との共有点について考察したり、2次不等式の解法を理解することができるようには図を用いて学び、グラフや図を活用することのよさを認識する。	第1節 2次関数とグラフ (13) 第2節 2次関数の値の変化 (5) 第3節 2次方程式と2次不等式 (8)	26	
	7	7月初旬に単元テスト				
	8	数学Ⅰ 第1章 集合と論証 8月夏休み明け課題確認テスト	集合と論理を学ぶことで、数学の諸概念を多面的、統合的に見ること、そして論理的に考える技能を身につけ、後の学習において、より厳密に論理を進め、新たな知識を習得できるようになる。	第4節 集合と命題 (7)	7	
	9	数学A 第1章 場合の数と確率 9月初旬前期期末考査	集合は有限集合のみを取り扱い、場合の数を求めるときはもれなく重複なく数えあげる方法やその考え方を身につける。確率の基本性質を学び、これらを利用して確率を求めることができる。応用として、独立な試行や反復試行の確率、条件付き確率を取り上げ、具体的な事象を数学的に考察し、処理する力を伸ばす。	第1節 場合の数 (13) 第2節 確率 (15)	28	
		10月初旬に単元テスト				
後期	10	数学A 第2章 図形の性質	三角形と比の定理から始め、いろいろな三角形および円に関する定理や性質について学び、図形に対する見方考え方を豊かにする。空間における直線や平面の位置関係を確認し、多面体の基本的な性質について理解する。	第1節 平面图形 (20) 第2節 空間图形 (8)	28	
	11	11月初旬に単元テスト 11月下旬後期中間考査				
	12	数学Ⅰ 第3章 図形と計量	中学校で学習した図形の基本的な性質を踏まえ、図形的な内容として三角比を導入し、三角比の意味と基本的な性質を理解する。また、三角比を拡張して、平面图形や空間图形における線分の長さや角の大きさ等の計量ができるに加えて、三角比を利用することができるよさを実感できるようにする。	第1節 三角比 (11) 第2節 三角形への応用 (10)	21	
	1	数学A 第3章 整数の性質 1月冬休み明け課題確認テスト 1月中旬に単元テスト	自然数を幅広く取り扱い、最大公約数やユークリッドの互除法を通して一次不定方程式を解くことができるようになる。整数の性質を活用して、n進法や分数の仕組みを理解し事象の考察に活用できるようにする。	第1節 約数と倍数 (8) 第2節 ユークリッドの互除法 (8) 第3節 整数の性質の活用 (5)	11	
	2	数学Ⅰ 第4章 データの分析 2月下旬後期期末考査	大量のデータを図や表、数値を用いて適切に整理し、データの様子を把握して、これらを根拠として客観的な問題解決につなげられる能力を育成する。		21	
	3	数学Ⅰ・数学Aのまとめおよび課題学習	数学Ⅰ・数学Aの復習を行い、次年度の学習へ円滑に移行できるよう発展的内容を取り扱う。	まとめ (14)	14	

# 2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任												
理科	物理基礎	2	1年次	藤井隆徳・藤島 譲												
使用教科書	数研出版「改訂版 物理基礎」				使用副教材	数研出版「リードLightノート物理基礎」										
科目の目標											道徳教育のねらい					
日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。											科学技術の功罪等などにも折りに触れながら科学技術を正しく利用出来る資質を身につける。					
市函DP(本校で身に付けさせたい10の資質・能力)																
学習活動内容		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・ 自己管理力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力					
1	直線運動の世界	○			○	○				○						
2	力と運動の法則	○	○	○	○	○				○						
4	日常に潜む力	○	○		○	○				○						
5	仕事とエネルギー	○	○		○	○			○	○						
9	熱	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
10	波	○		○	○	○	○	○	○	○						
12	電気	○		○	○	○				○						
14	エネルギー	○			○	○				○						
38	グループワーク	○	○	○	○	○	◎		◎	○						
39	考查	○	○					○	○							
評価の観点	关心・意欲・態度		思考・判断			技能・表現			知識・理解							
	物理現象に対して、興味・関心を高めて、知的好奇心をもって問題を見いだし、主体的に解決する態度を養う。		自らが見付けた課題に対し、目的意識をもち、見通しをもって観察・実験などに取り組む態度を養う。			探究活動を通して、仮説・観察・実験、結果、考察、法則性の導出、発表から物理学的に探究する技能・表現を養う。			観察・実験などを通して得られた結果から、物理的な事象・現象の基本概念や原理・法則などの習った知識・理解を深める。							
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。															
	授業での取組		課題への取組		定期考查		単元テスト		小テスト		その他の資料					
	关心・意欲・態度		○		◎				○							
	思考・判断		◎				○		○		○					
技能・表現		○				○		○		○						
知識・理解		○		○		◎		◎		○						

# 物理基礎 授業計画

授業計画				実施状況		
	月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	4月 8	物体の運動とエネルギー	運動の表し方を理解する。グラフや式で運動を分析する。	直線運動の世界	8	
	5月 21	前期中間考査	ベクトルを用いて、力のつり合いを理解する。運動の3法則について理解する。落下運動、水平投射、斜方投射について式を使って扱えるようになる。	力と運動の法則	13	
	6月 22			日常に潜む力	1	
	25			仕事とエネルギー	3	
	7月 33				8	
	8月 33				1	
	9月 34	前期期末考査				
	34	さまざまな物理現象とエネルギー				
	10月 44	後期中間考査	熱を定量的に扱える。	熱	10	
	11月 54		波の性質を理解する、	波	10	
	55				1	
	12月 65			電気	10	
後期	1月 66	後期期末考査			1	
	2月 70			エネルギー	4	
	3月 70					

2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任													
理科	生物基礎	2	1年次	小町金平・塩谷和樹・下村 薫													
使用教科書	数研出版「改訂版 生物基礎」				使用副教材	数研出版「四訂版 リードLightノート生物基礎」 三訂版 フォトサイエンス生物図録(数研出版)											
科目の目標										道徳教育のねらい							
日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを通じて生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基礎的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。										自然に対する関心を深め、環境を守る心の育成や動物愛護の精神を養う。							
市函D P (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)																	
学習活動内容		1 基礎力	2 思考力	3 主体的 学習力	4 傾聴力	5 自己理解・ 自己管理力	6 他者 理解力	7 計画 実行力	8 発信・ 表現力	9 ストレス コントロール力	10 実践力						
1 生物の特徴		○			○												
2 遺伝子とそれはたらき		○			○												
3 生物の体内環境		○	○		○												
4 植生の多様性と分布		○		○	○					○							
5 生態系とその保全			○	○	○												
6																	
7 グループワーク			○	○	○	○	○	○	○	○	○						
8 課題提出				○	◎		○		○		○	○					
9 考査		○	○						○	○							
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断・表現			観察・実験の技能			知識・理解								
	個々の生命現象に興味関心を持ち、意欲的に授業に参加できたか。を事象の考察に活用しようとする。		個々の生命現象を把握し、生命の実像を捉えることができたか。			観察や実験を通して得られたデータから、生命現象を適確に捉え、それを表現することができたか。			個々の生命現象を把握する上での基礎となる用語を理解し、表現できる力が身についたか。								
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。			授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料								
	関心・意欲・態度	○	○					○									
	思考・判断・表現	○			○		○				○						
	観察・実験の技能	○			○		○				○						
	知識・理解	○	○	○	○	○	○	○	○	○							

# 生物基礎 授業計画

授業計画				実施状況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	第1編 生物と遺伝子 1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 光合成と呼吸  <前期中間考査>(1) 2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝情報の分配  <前期期末考査>(1)	生物学を学習する上で重要な視点である生物の多様性と共通性について理解させる。生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを学習する。さらに、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。	顕微鏡の活用(2) 多様な生物の共通点(1) 生物の共通性としての細胞(2) エネルギーと代謝(2) 代謝にかかる酵素(2) 生体内におけるエネルギー変換(3) ミトコンドリアと葉緑体の起源(1)	13	
	6 (7)		DNAの構造(3)	1	
	7 (4)		ゲノムと遺伝情報(2)	16	
	8 (3)		細胞分裂とDNAの複製(3)		
	9 (3)		遺伝情報の流れ(2)		
			転写(2)		
			翻訳(2)		
			遺伝子の発現と生命現象(2)		
				1	
後期	第2編 生物の体内環境の維持 3章 生物の体内環境 1. 体液という体内環境 2. 腎臓と肝臓 3. 神経とホルモンによる調節 4. 免疫  <後期中間考査>(1)	動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境(体内環境)である。この章では体内環境がいかにしてほぼ一定に保たれているのか、また体内ではどのように調節が行われているのか、循環系、腎臓と肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫について学習する。私たち自身のからだにかかる内容についてできるだけ身近な話題を取り上げながら理解させる。	体内環境の特徴(2) 心臓と血液循環(2) 体内環境を調節する器官(2) 自律神経系による調節(2) 内分泌による調節(2) 自律神経系とホルモンによる協同作用(2) 自然免疫(2) 適応免疫(2) 免疫とヒト(2)	18	
	12 (4)			1	
	10 (6)			8	
	11 (7)				
	12 (2)				
後期	第3編 生物の多様性と生態系 4章 植生の多様性と分布 1. さまざまな植生 2. 植生の遷移 3. 気候とバイオーム  5章 生態系とその保全 1. 生態系 2. 物質循環とエネルギーの流れ <学年末考査>(1) 3. 生態系のバランス 4. 人間活動と生態系の保全	植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて学習する。さらに、地球上にはさまざまなバイオームが見られること、どのようなバイオームが分布するかは主に気温と降水量によって決まることを、世界と日本のバイオームを取り上げて学習する。  生態系の構成要素、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。その上で、生態系はそのバランスが保たれていること、人間の活動が生態系のバランスに大きな影響を与えていくことなどを、身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げながら学習し、自然環境を保全することが大切であることを理解させる。	植生と生態系(2) 植生の遷移(2) 地球上の植生分布(2) 陸上のバイオーム(2)  生態系でのエネルギーの流れ(2) 生態系での物質の循環(3)	11	
	1 (1)			1	
	3 (5)				

2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科 担任						
保健体育	体育	2	1年男子	石郷岡 純一						
使用教科書	現代保健体育（大修館）		使用副教材							
科目の目標				道徳教育のねらい						
体育の見方・考え方を働きさせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るために資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				集団行動や授業準備、実技において、協力や思いやり、安全指導などを通じて道徳心を育てる。						
学習活動内容	市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
	1 基礎力	2 思考力	3 主体的 学習力	4 傾聴力	5 自己理解 自己管理力	6 他者 理解力	7 計画 実行力	8 発信 表現力	9 ストレス コントロール	10 実践力
1 体づくり運動・体力測定	0	0			0		0			
2 体育理論	0	0		0		0		0		
3 ソフトボール	0	0	0							0
4 バレーボール	0	0	0							0
5 選択種目Ⅰ（バレー・ソフト・サッカー）	0	0	0	0		0	0	0		
6 陸上競技（ジャベリック・円盤・砲丸）	0	0	0	0				0	0	
7 バスケットボール	0	0	0							0
8 ネット型ラケットスポーツ（卓球・バドミントン）	0	0	0	0						0
9										
10										
11										
12										
評価の観点	主体的に学習に取り組む態度		思考力・判断力・表現力等		知識及び技能					
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。		生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。		運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防の展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。また、選択した運動の技能（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。					
評価の方法	授業の準備・後片付けなどへの協力姿勢、意欲的な取組・グループでの協力姿勢を評価		授業における練習の取組方、ワークシートでの評価		各種目における実技テスト、記録・発表会での評価、ペーパーテストによる評価					

# 1年男子体育 授業計画

授業計画					実施状況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配置時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	4・5月	体つくり運動・スポーツテスト(6)	・授業オリエンテーション、集団行動・集団づくり、補強運動、スポーツテストを実施し自らの体力への理解を深め今後の授業にいかす。	・オリエンテーション(1) ・体つくり運動・スポーツテスト(5)・・・「体ほぐし運動」と「体力を高める運動」を通じて、心と体の状態を把握し仲間とともに運動に親しむための基礎を養う。		
	5月 6月 7月	体育理論(3)	・運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。	・人間にとて「動く」とは何か ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ(各1h)		
	5月 6月	ソフトボール(10)	・基本技術の練習(捕球・送球・打撃)と技術向上をはかり、試合形式を通して実践する力を身につける。試合では互いに協力する姿勢を養う。	・基本技術習得のための練習(2) ・グループ技能を高める練習(3) ・ゲーム形式(5)		
	7月 8月 9月	バレーボール(10)	・基本技術の練習(バス・サーブ・スパイク)と技術向上をはかり、試合形式を通して実践する力を身につける。試合では互いに協力する姿勢を養う。	・基本技術習得のための練習(2) ・グループ技能を高める練習(3) ・ゲーム形式(5)		
	9月	選択種目Ⅰ(3)	・球技大会で実施する、「バレー」、「ソフト」「サッカー」から種目を選択し、技術向上、または仲間との連携を高め、工夫した取り組みを実践する。	・球技大会種目の練習(3)		
	10月 11月	陸上競技(10)	投てき(ジャベリック・円盤・砲丸)の基本技術習得の練習を積み重ね記録向上を目指す。	・ジャベリック、円盤、砲丸それぞれ数時間練習し、記録測定(10)		
	10月 11月 12月	体育理論(3)	・運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。	・オリンピックと国際理解 ・スポーツと経済 ・ドーピングとスポーツ理論(各1h)		
	11月 12月	バスケットボール(10)	・基本技術の練習(ドリブル・バス・シュート)と技術向上をはかり、試合形式を通して実践する力を身につける。試合では運動量を確保し、互いに協力する姿勢を養う。	・基本技術習得のための練習(2) ・グループ技能を高める練習(5) ・ゲーム形式(3)		
	1月 2月	ネット型ラケットスポーツ(10)	・卓球、バドミントンは基礎技能を習得し、シングルスの基本的なルール	・卓球、バドミントンそれぞれ5時間		
				を目標に実施。		

2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科 担任						
保健体育	体育	2	1年女子	磯部 尚志						
使用教科書	現代保健体育（大修館）		使用副教材							
科目的目標				道徳教育のねらい						
体育の見方・考え方を働きかせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るために資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				集団行動や授業準備、実技において、協力や思いやり、安全指導などを通じて道徳心を育てる。						
学習活動内容	市函DP(本校で身に付けさせたい10の資質・能力)									
	1 基礎力	2 思考力	3 主体的学習力	4 倾聴力	5 自己理解 自己管理力	6 他者理解力	7 計画実行力	8 発信表現力	9 ストレスコントロール力	10 実践力
1 体づくり運動・体力測定	0	0			0		0			
2 体育理論	0	0		0		0		0		
3 バレーボール	0	0	0							0
4 ソフトボール	0	0	0							0
5 選択種目1(バレー・ソフト)	0	0	0	0		0	0	0		
6 バスケットボール	0	0	0							0
7 ダンス	0	0	0	0		0	0	0		
8 ネット型ラケットスポーツ(卓球・バドミントン)	0	0	0	0						0
9										
10										
11										
12										
評価の観点	主体的に学習に取り組む態度		思考力・判断力・表現力等		知識及び技能					
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。		生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。		運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防の展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。また、選択した運動の技能(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。					
評価の方法	授業の準備・後片付けなどへの協力姿勢、意欲的な取組・グループでの協力姿勢を評価		授業における練習の取組方、ワークシートでの評価		各種目における実技テスト、記録・発表会での評価、ペーパーテストによる評価					

# 1年女子体育 授業計画

授業計画				実施状況	
月 (時数)	単元・考査等 (配置時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	4・5月	体つくり運動・スポーツテスト(6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業オリエンテーション、集団行動・集団づくり、補強運動、スポーツテストを実施し自らの体力への理解を深め今後の授業にいかす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション(1)</li> <li>体つくり運動・スポーツテスト(5)・「体ほぐし運動」と「体力を高める運動」を通じて、心と体の状態を把握し仲間とともに運動に親しむための基礎を養う。</li> </ul>	
	5月	体育理論(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間にとって「動く」とは何か</li> <li>スポーツの始まりと変遷</li> <li>文化としてのスポーツ(各1h)</li> </ul>	
	6月				
	7月	バレーボール(10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本技術の練習(バス・サーブ・スパイク)と技術向上をはかり、試合形式を通して実践する力を身につける。試合では互いに協力する姿勢を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本技術習得のための練習(2)</li> <li>グループ技能を高める練習(3)</li> <li>ゲーム形式(5)</li> </ul>	
	8月				
	9月	ソフトボール(10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本技術の練習(捕球・送球・打撃)と技術向上をはかり、試合形式を通して実践する力を身につける。試合では互いに協力する姿勢を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本技術習得のための練習(2)</li> <li>グループ技能を高める練習(3)</li> <li>ゲーム形式(5)</li> </ul>	
	10月	選択種目Ⅰ(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>球技大会で実施する、「バレー」、「ソフト」から種目を選択し、技術向上、または仲間との連携を高め、工夫した取り組みを実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>球技大会種目の練習(3)</li> </ul>	
	11月	バスケットボール(10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本技術の練習(ドリブル・バス・シュート)と技術向上をはかり、試合形式を通して実践する力を身につける。試合では運動量を確保し、互いに協力する姿勢を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本技術習得のための練習(2)</li> <li>グループ技能を高める練習(5)</li> <li>ゲーム形式(3)</li> </ul>	
後期	10月	体育理論(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリンピックと国際理解</li> <li>スポーツと経済</li> <li>ドーピングとスポーツ理論(各1h)</li> </ul>	
	11月	ダンスⅠ(10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでダンスを練習し発表する。</li> <li>発表会を通して、自分の演技と他の者の演技を比較し互いに評価する。</li> <li>グループ活動での積極的な取り組み、協調性と表現力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダンスの練習活動(8)</li> <li>ダンス発表(1)</li> <li>振り返り学習(1)</li> </ul>	
	12月	ネット型ラケットスポーツ(10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>卓球、バドミントンは基礎技能を習得し、シングルスの基本的なルールを理解し試合ができるために練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卓球、バドミントンそれぞれ5時間を目処に実施。</li> </ul>	
1月					
2月					

2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科 担任			
保健体育	保健	1	1年次	石郷岡 純一・磯部 尚志			
使用教科書	現代保健体育（大修館）			使用副教材			
科目的目標				道徳教育のねらい			
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を身につけます。				健康的な生活習慣の確立や交通規範の向上、応急手当の実践から自らの安全だけではなく、他者への思いやりや他者との適切な関わりについて考えさせる。			

学習活動内容	市函DP(本校で身に付けさせたい10の資質・能力)									
	1 基礎力	2 思考力	3 主体的 学習力	4 傾聴力	5 自己理解 自己表現力	6 他者 理解力	7 計画 実行力	8 発信 表現力	9 ストレス コントロール力	10 実践力
1 5 生活習慣病とその予防	0	0	0	0	0					0
1 6 食事と健康	0				0		0			0
1 7 運動と健康	0				0		0			0
1 8 休養・睡眠と健康	0				0		0			0
1 9 嗅覚と健康	0	0								0
1 10 飲酒と健康	0	0								0
2 11 薬物乱用と健康	0	0	0					0		0
2 12 現代の感染症	0									0
2 13 感染症の予防	0		0				0			0
2 14 性感染症とエイズ	0			0		0				0
3 15 従事と適応機制	0	0	0					0	0	0
3 16 心身の相関とストレス	0				0	0			0	0
3 17 ストレスへの対処	0	0			0		0		0	0
3 18 心の健康と自己実現	0	0	0	0			0		0	0
4 19 交通事故の現状と要因	0								0	0
4 20 交通社会における運転者の資質と責任	0			0					0	0
4 21 安全な交通社会づくり	0	0				0	0	0		0
4 22 応急手当の意義とその基本	0	0		0						0
4 23 心肺蘇生法	0		0							0
4 24 日常的な応急手当	0		0		0		0			0
1 私達の健康のすがた										
2 健康のとらえ方										
3 健康と意志決定・行動選択										
4 健康に関する環境づくり										

各单元の補足説明として活用する单元

評価の観点	主体的に学習に取り組む態度	思考力・判断力・表現力等	知識及び技能
	現代社会と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の方法	授業態度・ノートや提出物 ・参加する姿勢で評価	授業でのグループ討議・発表、提出物で評価	単元テストや小テストで評価、調べ学習レポート

# 1年保健 授業計画

学習指導計画					実施状況	
月 (時数)	単元・考查等 (配置時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前期	4月 ・オリエンテーション 「現代社会と健康」					
	5月 5、生活習慣病とその予防	・わが国における健康水準の向上や健康問題の変化の背景を理解し、健康的な生活習慣の確立に必要な資質や能力を養う基礎を身につける。	①第1ブロック 5、6、7、8、9、10、			
	6月 6、食事と健康					
	7月 7、運動と健康					
	8月 8、休養・睡眠と健康					
	9月 9、喫煙と健康					
	10月 10、飲酒と健康					
	11月 11、薬物乱用と健康					
	12月 12、現代の感染症					
	1月 13、感染症の予防					
後期	2月 14、性感染症・エイズとの予防		※各ブロックで小テスト、調べ学習を実施する。		前期	
	14時間					
	10月 【範囲】	・心の健康について学習し、高校生活における自分自身と照らしあわせながら、日常生活に生かす。	③第3ブロック 15、16、17、18			
	11月 15、欲求と適応機制					
	16、心身の相関とストレス					
	17、ストレスへの対処					
	18月 18、心の健康と自己実現					
	19、交通事故の現状と要因					
	20、交通社会における運転者の資質と責任					
	21月 21、安全な交通社会づくり					
後期	22、応急手当の意義とその基本		※各ブロックで小テストや調べ学習			
	23月 23、心肺蘇生法					
	24、日常的な応急手当					
	★調べ学習の取組	★自身の興味ある健康課題について深く調べてまとめあげる。	★1年間の通じた内容から深く調べるテーマを設定し「調べ学習」を実施する。		後期	
	21時間					

2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース		教科担任											
音楽	音楽 I	2	1 年次		成田 良太											
使用教科書	教育出版 音楽 I 改訂版 Tutti				使用副教材	啓隆社 Music Note 教育出版 New Recorder Library										
科 目 の 目 標							道德教育のねらい									
音楽の諸活動を通じて、創造的な表現の能力を伸ばし、鑑賞の能力を高めるとともに音楽に対する豊かな感性、音楽経験をとおして、深い美的情操と豊かな人間性を養い、円満な人格の発達をはかり、社会人としての教養を高める。																
市函DP(本校で身に付けさせたい10の資質・能力)																
学習活動内容		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力					
1 歌唱(齊唱・合唱)		○		○					○							
2 器楽(リコーダー独奏・重奏)		○		○					○							
3 鑑賞		○	○		○											
4 楽典		○	○													
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
16																
17																
18 グループワーク			○	○	○	○	◎		◎	○	○					
19 課題提出			○	◎		○		○		◎	○					
20 実技テスト		○	○					○	○							
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現			知識・理解								
	・音楽を愛好し音楽文化を理解しているか。 ・意欲的・主体的にグループ活動を行っているか。		・感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚しているか。 ・音楽のよさや美しさを感じ取っているか。		・表現に対する自己のイメージをもつているか。 ・創造的な表現をするための技能を身に付けているか。			・多様な音楽や音楽文化のよさや楽しさを主体的に味わっているか。 ・音楽をより深く探し伝えようとしているか。								
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。															
	授業での取組		歌唱実技テスト		器楽実技テスト		ミュージックノート		単元テスト		鑑賞レポート					
	関心・意欲・態度	◎														
	思考・判断	◎	○		○											
	技能・表現	○	○	○	○					○						
	知識・理解	○				○	○	○	○	○						

# 音楽 I 授業計画

授業計画				実施状況	
	月(時数)	単元・考查等(配当時数)	学習のねらい	学習内容(配当時間)	単元実施時数
前期	4月	オリエンテーション 多様な声の世界	親しみやすいJ-POPの歌を、二部合唱で合わせる楽しみを味わいながら高校の音楽学習への意欲を養う。また、高校生として音楽を学ぶにあたって、音楽を様々な視点から捉え楽しむ方法について考える。	○校歌(2) ○心の瞳(2) ○故郷(2)  ◆Ex.1音階や旋法(2) ○コンコーネ C Dur F Dur G Dur(3) ◆楽典(いろいろな音階や旋法)(3) ○リコーダーライブラリーlesson1~(8)	6 2 8 8
	5月	音楽の要素と組み立て1 器楽演奏(アルトリコーダー)	アルトリコーダー奏法の基礎	○Danny Boy(2) ○少年時代 ◆Ex.2リズム(2)  ○Caro mio ben(3) ○野ばら	4
	6月	言葉と音楽1—日本語の歌と英語の歌—	リズムの働きに着目した声や身体による表現活動を行い、音楽におけるリズムの働きを知覚感受し、音楽表現を工夫する。		
	7月				
	8月	言葉と音楽2—イタリア語とドイツ語の歌曲に挑戦—			
	9月			◆楽典(拍子、記号)(1)	
	10月	物語と音楽のかかわり —映像における音楽の効果—	映像作品における音楽の効果を感じ取るとともに、音楽と他の文化が互いにどのように影響をし合って発展してきたかを考える。	◆ウェスト・サイド物語(4) ○Tonight ◆My Fair Lady(4) ○一晩中踊れたら  ○オペラ「魔笛」(5) ○ミュージカル「ライオンキング」(5) ○歌舞伎「勘定帳」	8
後期	11月	舞台芸術の世界	オペラ・ミュージカル・歌舞伎といった舞台芸術の特徴を理解し、それらの文化的・歴史的背景に関心をもって、そのよさや価値について考え味わう。		10
	12月				2
	1月	混声合唱	合唱活動に関心をもち、歌詞の内容や曲想を生かして、声部の役割を理解し表現を工夫して合唱をする。	○夢みたものは(4) ○ひとつの朝(4) ○鶯(4)	12
	2月				
	3月	音楽Iのまとめ	これまでの音楽学習のまとめとして器楽アンサンブルなどの発表を行う。	◆学習のまとめのワークシート ○□ 2学期に学習した楽曲	6

2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任
芸術	美術 I	2	1年次	石川絵里子
使用教科書	日本文教出版 高校生の美術 1		使用副教材	なし
科目の目標				道徳教育のねらい

中学校美術での学習を踏まえ、美術の幅広い活動を通して、美術を愛好する心情を育てるとともに、生涯にわたり美術を学び親しむための基礎を養うことを目標とする。

芸術を愛好し、美を探究する過程で、自然への感謝と生物に対する尊敬の念を持ち、他を思いやる心を育てる。

学習活動内容	市函DP(本校で身に付けさせたい10の資質・能力)									
	1 基礎力	2 思考力	3 主体的 学習力	4 傾聴力	5 自己理解・ 自己管理力	6 他者 理解力	7 計画 実行力	8 発信・ 表現力	9 ストレス コントロール力	10 実践力
1 導入・美術Iオリエンテーション		○	○	◎					○	
2 油彩オリエンテーション・練習	○	○	○	○	○		○		○	
3 油彩画①	○	○	○		○	○	○	◎		○
4 鑑賞		○	○	◎		○			○	
5 油彩画②	○	○	○		○	○	○	◎		○
6 合評		○	○	◎	○	○		◎	○	
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	美術の文化を理解し、意欲的に主体的に授業に取り組んでいるか	感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか	創造的な表現に必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表しているか	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうことができるか

評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。			
	授業での取組	作品	発表	鑑賞
関心・意欲・態度	◎		○	○
思考・判断	○	◎	○	
技能・表現	○	○	○	
知識・理解	○	○	○	◎

# 美術 I 授業計画

授業計画				実施状況	
月 (時数)	単元・考查等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施時数	実施反省
前期	4月 美術オリエンテーション	・芸術の分野のひとつである美術についての考え方、取り組み方を理解する	・プリント、教科書による解説 (2)	2	
	油彩オリエンテーション	・油彩画についての基礎的な知識や作品についてを学ぶ ・制作の流れについて理解する	・油彩画の基礎知識 ・道具について ・参考作品から技法を知る (2)	2	
	5月 静物画（練習）	・基本的なモチーフであるリンゴをグループで制作し、それを通して油絵の具の使い方や表現技法を学ぶ	・準備、後片付けについて (1) ・下描き、彩色 (7)	8	
	6月 静物画（ピンのある静物）	・あらかじめ用意した複数のモチーフをグループで囲み制作する	・下描き、彩色 (16)	20	
	7月	・油彩画の技法を用いて、様々	・中間合評会 (2)		
	8月	・過去から現在に至るまで遺されてきた巨匠たちの作品についての興味を深め、美術を愛好する心情を育てる	・合評会 (2)		
	9月 鑑賞（名画から学ぶ）	・教科書や画集からそれぞれの感性に合った作品を探し、その作者についてや作品の時代背景などについて調べ、グループで発表する。		3	
	10月 人物画	・自画像をモチーフとし、様々な名画の色彩やタッチを参考に	・人物画オリエンテーション (2)	33	
	11月	油彩画を制作することで、作者の思いや表現技法を学び取り、技術の習得を目指す。	・デッサン (4) ・下描き、彩色 (24)		
後期	12月		・中間合評会 (1)		
	1月		・合評会 (2)		
3月	2月				
	1月 美術館鑑賞	・本物の絵画や彫刻に触れ、そのよさを知るとともに美術を愛する心情を育てる	・函館美術館を訪問し、学芸員の方からの解説を受け、作品を鑑賞する (2)	2	

2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース		教科担任								
芸術	書道 I	2	1 年次		磯波 理恵								
使用教科書	光村図書 書 I			使用副教材	プリント書道 (教科担任作成教科書準拠)								
科 目 の 目 標						道徳教育のねらい							
書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てると共に、感性を豊かにし、書写能力と芸術性を探究することを目標とする。						芸術を愛好し、美を探究する過程で、自然への感謝と生物に対する尊敬の念を持ち、他を思いやる心を育てる。							
市函D P (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)													
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8	10			
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・ 自己管理力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力			
1 導入・基本姿勢・基本用筆法		○			○					○			
2 楷書		○		○			○			○			
3 行書		○	○	○			○			○			
4 隸書		○	○	○			○		○	○			
5 かな		○	○	○			○			○			
6 漢字かな交じり		○	○	○		○		○	○	○			
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18 探究心プリント		○	○	○		○	○	○	○	○			
19 合評会		○	○	○	○	○	○	○	○	○			
20 展覧会レポート課題		○	○	○		○	○	○	○	○			
評価の観点	关心・意欲・態度	思考・判断			技能・表現			知識・理解					
	技術の向上・表現活動への探 究心、鑑賞活動への積極的 参加	法帖の解釈、ことばの解釈 作品批評			用筆法、構成力、生命感 覚			書道史、書道用語、書道一般 常識					
次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。													
評価の方法	臨書	創作	作品	探究心プリント	合評会	展覧会レポート							
	关心・意欲・態度		○	○	○								
	思考・判断	○	○	○	○	○							
	技能・表現	○	○	○	○	○							
	知識・理解	○	○	○	○	○							

# 書道 I 授業計画

授業計画				実施状況	
月 (時 数)	単元・考查等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	4月 導入 基礎練習	姿勢、筆の持ち方、運腕、運筆、用筆	姿勢、筆の持ち方、運腕、運筆、用筆(6)	6	
	5月 楷書	牛橛造像記	楷書基礎(2) 北魏楷書、骨力、直線力、剛腕(6) 合評会(鑑賞・批評)(2)	2 8	
	6月	顔氏家廟碑	顔法、筆力、向勢、上下動(6) 合評会(鑑賞・批評)(2)	8	
	7月				
	8月				
	9月	孔氏廟堂碑	初唐楷書、整齊美、バランス(6) 合評会(鑑賞・批評)(2)	8	
後期	10月				
	11月 行書	蘭亭叙	行書、流動美、太細大小潤渴変化(8) 合評会(鑑賞・批評)(2)	10	
	12月 賴書	張遷碑	賴書、波磔、重量感(6) 賴書基礎	8 2	
	1月 かな 基礎練習		合評会(鑑賞・批評)(2) 成立、元字、連綿、散らし書き(6)	12	
	2月	高野切第三種	平安かな、行の流れ、書き(6)		
	3月 漢字かな交じりの書	近代詩文書	現代書研究(6)	6	

2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任										
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	1年次				鈴木 健人・工藤 慶文 藤田 尚樹・吉村 由紀										
使用教科書	Revised LANDMARK English Communication I (啓林館)				使用副教材		Revised LANDMARK English Communication 1 WORKBOOK Standard (啓林館)										
科 目 の 目 標								道徳教育のねらい									
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見等を多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。								①言語活動を通じ人間との関わりを築き互いの立場や考え方尊重しながら伝え合う力やコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を養う。 ②各単元の題材を通じ、世の中の様々な事象に関心を持ち、積極的に関わる姿勢を養う。									
市函DP(本校で身に付けさせたい10の資質・能力)																	
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10						
1 定期考査		○							○								
2 パフォーマンステスト (スピーキング)			○					○		○	○						
3 パフォーマンステスト (ライティング)			○				○		○		○						
4 授業 (リスニング・大意把握)	○	○	○	○													
5 授業 (リーディング・情報整理)		○		○													
6 授業 (リプロダクション・サマリー)				○		○		○									
7 授業 (ペアワーク・グループワーク)				○		○		○	○	○	○						
8 多読			○	○				○		○	○						
9 提出物	○		○		○				○								
10 課題確認テスト	○				○		○	○									
11 小テスト	○				○		○										
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての知識・理解								
	意欲的に授業に臨み、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。		テーマについて自分の考えや意見を英語で話したり書いたりして、表現できるか。			英文を聞いたり読んだりすることで、主題や要点を把握したり、他人の考え方や意見を英語で理解することが出来るか。			文法や語彙、発音等に関する知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解できたか。								
評価の方法	課題の取り組み状況、定期考査の英作文問題、授業内のスピーキング活動を通じて評価する。		定期考査の英作文問題、授業内のライティング活動、授業内で行うスピーキングテストを通じて評価する。			定期考査の初見の英文を使った読解問題、授業内で行うライティング活動を通じて評価する。			授業内で行う小テスト、課題確認テスト、定期考査の文法問題や語彙問題などを通じ評価する。								

# コミュニケーション英語Ⅰ 授業計画

授業計画				実施状況	
前 期	4(9)	オリエンテーション(1) Lesson1 Whan Can Blood Type Tell Us? (8)	<題材>血液型に対する日本人と外国人の関心の違いを理解する。 <文法>動名詞、不定詞	各Lesson原則、以下のような構成で進める。 • Pre reading (全体の概要をつかむ) (1)	
	5(10)	Lesson2 Curry Travels around the World (10)	<題材>カレーのルーツと語源、歴史を理解する。 <文法>分詞の後置修飾、現在完了形	• While reading (Lesson 全体を前半・後半に分け、語彙理解・内容確認・精読・音読などを行い、細部を理解し、理解したことを習得する) (2 × 2)	前
	6(11)	中間考査 (1) Lesson3 School Uniforms (10)	<題材>日本や諸外国の制服事情を理解する。 <文法>関係代名詞、S+V+(O+)疑問詞。	• Post reading (文法のおさらい、学習内容を活用したアウトプット活動などに取り組み、学習内容の定着を図る) (4 ~ 5)	
	7(5)	Lesson4 Gorillas and Humans (10)	<題材>ゴリラと人間の類似性を理解する。 <文法>seemの用法、現在完了進行形		期
	8(5)				
後 期	9(11)	Lesson5 "gr8" or "great"? (10) 期末考査 (1)	<題材>英語圏の若者が用いる新種の言語について理解する <文法>It ~ thatの形式主語構文、知覚動詞+O+動詞原形/現在分詞		
	10(13)	Lesson6 Biodiesel Adventure (10) Lesson7 Eco-tour on Yakushima (3)	L6<題材>バスコファイブ号の仕組みと周生さんの旅を理解する。 <文法>過去完了形、使役動詞+O+動詞の原形。		
	11(12)	Lesson7つづき (7) Lesson8 Mariko Nagai Super Interpreter (5)	L7<題材>世界遺産屋久島とエコツアーアイについて理解する。 <文法>前置詞+関係代名詞、関係副詞。 L8<題材>長井さんの卓越した仕事ぶりや通訳者の過酷な仕事について理解する。		後
	12(6)	Lesson8つづき (4) 中間考査 (1) GTEC (3)	<文法>関係代名詞what、分詞構文について理解する。 L9<題材>・宇宙エレベーターの仕組みや実現性について理解する。		
期	1(6)	Lesson9 Space Elevator (4)	<文法>仮定法過去、倍数表現		期
	2(10)	Lesson9つづき (6) Lesson10 Friendship over Time (3) 期末考査 (1)	L10<題材>・トルコ航空機による日本人救出劇とエルトゥールル号の物語を理解する。 <文法>関係代名詞の非限定用法、仮定法過去完了。		
	3(7)	Lesson 10(7)			

2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任									
外国語	英語表現 I	2	1 年次				鈴木 健人・工藤 慶文 藤田 尚樹・吉村 由紀									
使用教科書	Revised Vision Quest English Expression I Standard (啓林館)				使用副教材		総合英語 FACT BOOK これからの英文法 (桐原書店) Vision Quest English Expression I WORKBOOK (啓林館)									
科目の目標									道徳教育のねらい							
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。									言語活動を通じ人間との関わりを築き互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力やコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を養う。							
学習活動内容			市函DP(本校で身に付けさせたい10の資質・能力)													
			1 基礎力	2 思考力	3 主体的 学習力	4 傾聴力	5 自己理解・ 自己管理力	6 他者 理解力	7 計画 実行力	8 発信・ 表現力	9 ストレス コントロール力	10 実践力				
1 Build Up/Practice (文法・『学び合い』)		◎	○	○	○	○	○	○								
2 Model Conversation (会話)					○				◎							
3 Expressing (会話・作文)							○		◎							
4 Use it! (会話・作文)							○		◎							
5 課題提出		○						◎								
6 考査		◎						○	◎							
評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての 知識・理解								
	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。			外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。			外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。								
評価の方法	課題の取り組み状況、定期考査の英作文問題、授業内のスピーチング・ライティング活動を通じて評価する。	定期考査の英作文問題、授業内のライティング活動、授業内で行うスピーチングテストを通じて評価する。			授業内で行うスピーチングテストを通じて評価する。			授業内で行う小テストや、定期考査の文法問題、英訳問題などを通じ評価する。								

# 英語表現 I 授業計画

授業計画				実施状況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前 期	4月 Lesson1 Let's have lunch together sometime. (5)	紹介 : Model Conversationで自己紹介を含む、初対面での自然な会話の流れを学ぶ。Expressingでは自己紹介や他者紹介ができる。	文の種類 : 肯定文・否定文・さまざまな疑問文や命令文を適切に作り、それに応答することができる。感嘆文で驚きや感動を表すことができる。		
	5月 Lesson2 Are you interested in Japanese anime? (5)	興味・関心 : Model Conversationで興味や関心を表す表現を多く学ぶ。Expressingでは自らの興味・関心を紹介し、感想やおすすめの作品を伝えれる。	文型と動詞 : 5つの文型の構造を理解し、單文を正確に作ることができる。また、紛らわしい自動詞と他動詞の使い分けができる。		
	6月 前期中間考査 (1) Lesson4 I hear you've joined the soccer team. (6)	旅行 : Model Conversationで予定を尋ねたり伝えたりする会話を学び、Expressingでは旅行のプランを作ってペアで話したり発表したりできる。	時制 : 基本時制の概念をイメージとして把握し、伝えたいことを適切な時制・進行形で発話できる。		
	7月 Lesson5 Can you tell me what ammitsu is like? (5)	スポーツ : Model Conversationでサッカーについての会話からスポーツに関する表現を学ぶ。Expressingでスポーツ活動の経験を尋ねたり伝えたりできる。	完了形 : 現在・過去・未来完了形の概念をイメージで把握し、現在形や過去形と区別する。それぞれの用法と共に使われる語句を理解し、適切に文を作れる。		
	8月 前期期末考査 (1) Lesson6 I'm so glad I can see the Sydney Opera House. (6)	食事 : Model Conversationでレストランでの会話から特有の表現を学ぶ。Expressingではレストランでの食事の注文ができる。	助動詞 : 助動詞それぞれの意味や用法を学び、適切に使い分けて話者の気持ちや判断を表すことができる。		
	9月	観光 : Model Conversationで観光地での案内人との会話の流れを学び、名所について説明を聞いて感想を表せる。Expressingの活動で観光地の案内ができる。	受動態 : 受動態のさまざまな文の作り方を学び、必要に応じて使うことができる。感情表現など、日本語と英語の違いに気を付けて表現することができる。		
	10月 Lesson7 It's very nice of you to say so. (5)	交際 : Model Conversationでパートナーに招待された時やプレゼントを渡す時の会話の流れを学ぶ。Expressingの活動でプレゼントへのお礼を伝えることができる。	不定詞 : 不定詞のさまざまな用法を学び、意味上のS+Vを含む文を作ることができる。慣用表現を用いて伝えたいことを1文で表すことができる。		
	Lesson8 How about going to see a musical? (5)	娯楽 : Model Conversationで娯楽への誘い方を学ぶ。Expressingでは趣味について話し合ったり、友人を遊びに誘うメールを書いたりできる。	動名詞 : 動名詞のさまざまな用法を学び、動名詞句を用いて多様な文を作ることができる。		
後 期	11月 Lesson9 I'm for school uniforms. (6)	ルール : Model Conversationで学校の制服について賛成・反対意見を述べ合う会話を学ぶ。Expressingでは制服について自分たちの意見を述べることができる。	分詞 : 名詞を修飾する用法、補語になる用法を使うことができる。分詞構文を適切に用いて表現することができる。		
	12月 後期中間考査/GTEC (4) Lesson10 How do you spend Christmas? (5)	文化 : Model Conversationで日米の冬の行事について紹介し、文化の違いについての会話を学ぶ。Expressingでは日本文化や行事の紹介ができる。	関係詞 : 関係詞を用いた複文を作り、語句を限定したり補足説明を加えたりできる。また、複合関係詞を用いて讀歩の意味を表すことができる。		
	Lesson11 Did you watch the debate on TV last night? (5)	社会問題 : Model Conversationで読書の必要性についての会話を学ぶ。Expressingでは日本の出生率の低下について自分の意見を表明できる。	比較 : 複数のものを比較することで、物事の状態をわかりやすく伝えることができる。		
	2月 後期期末考査 (1)				
	Lesson12 I wish my parents were more understanding. (5)	悩み事 : Model Conversationで悩み事についての会話におけるアドバイスの仕方を学ぶ。Expressingで悩んでいる人への助言や提案ができる。	仮定法 : 仮定法を用いて事実と違うことや実際には起こり得ないことを述べることができる。		

2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任										
家庭	家庭基礎	2	1年次	橋本 晃子										
使用教科書	実教出版 新家庭基礎21			使用副教材	実教出版 ニューライフリーステップ 家庭科2021									
科目の目標								道徳教育のねらい						
人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。								生活文化の基本的知識・技能を身につけ、価値観の多様化が進む社会において主体的に判断し行動する力を育む。また、生活行動が社会に与える影響を理解し、社会の一員として継続可能な社会のあり方を考える能力を育む。						
市函DP(本校で身に付けさせたい10の資質・能力)														
学習活動内容		1 基礎力	2 思考力	3 主体的 学習力	4 傾聴力	5 自己理解・ 自己管理力	6 他者 理解力	7 計画 実行力	8 発信・ 表現力	9 ストレス コントロール力	10 実践力			
1 「自立する」とは?		○				○								
2 選んで着る(被服実習含む)		○	○											
3 楽しく安全に食べる(調理実習含む)		○	○											
4 多様化した社会を生きる		○	○											
5 消費社会を生きる		○	○											
6 明日に向けて		○				○								
7 被服実習		○				○		○						
8 調理実習		○				○		○						
9 グループワーク			○	○	○	○	○							
10 実技テスト		○				○		○						
11 定期考查		○	○					○	○					
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断・表現			技能		知識・理解						
	授業活動において積極的姿勢で参加・活動しているか。 授業の準備や課題提出が十分か。		授業で学んだ知識をもとに現代生活の諸問題や課題を見つけ、論理的に考え、選択し、それを表現することができるか。			調理実習や被服作製を通して、その技術を習得しているか。		人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を理解しているか。						
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。													
	授業での取組		課題への取組		課題の完成度		実習・実技テスト		定期考查					
	関心・意欲・態度		○ ○ ○		○ ○ ○		○ ○ ○		○ ○ ○					
	思考・判断・表現		○ ○ ○		○ ○ ○		○ ○ ○		○ ○ ○					
	技能				○ ○ ○		○ ○ ○							
	知識・理解		○ ○ ○				○ ○ ○		○ ○ ○					

# 家庭基礎 授業計画

授業計画				実施状況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
4月	「自立する」とは? (4時間)	・青年期の課題を理解し、「4つの自立」の重要性を学ぶ。	・生き方の多様化と自立(2) ・ライフデザイン(生活設計)(2)	前 期	
4月	選んで着る (18時間)	・健康で快適な衣生活を営むために必要な被服材料、被服管理などの基礎的・基本的な知識を学ぶ。 ・衣生活と消費行動や環境との関わりを学び、課題について考える。 ・被服実習を通してミシンの使い方と運針を身につける。	・衣服の機能(2) ・衣服表示の見方(2) ・衣服の材料(2) ・衣服の管理(洗濯と洗剤)(2) ・被服実習 (基礎縫い手縫いマスクの作成)(8) ・ミシンの操作(実技)(2)		
5月					
6月					
6月	楽しく安全に食べる (2.0時間)	・健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理および食品衛生などの基礎的・基本的な知識と技術を学ぶ。 ・食品の特徴や安全性について学び、よりよい食生活を選択する力を備える。 ・調理実習を通して、調理技術の基礎基本を身につける。	・食生活のありかた(1) ・栄養素のはたらき(3) ・食品の特性(2) ・食品の選択と取扱い(1) ・食品の安全性(1) ・食事の計画と調理実習(12) (調理実習は9月~11月に実施予定)		
7月					
8月					
9月					
	明日に向けて (2時間)	・ホームプロジェクト	・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ		
10月	多様化した社会を生きる (6時間)	・家族や家庭、男女共同の社会参加について、社会のあり方を考える。 ・生活時間や労働について考えを深め、社会システムのあり方を探る。	・社会の変化と家族(2) ・家族をめぐる法律(2) ・多様な生き方と選択(1) ・生活時間と仕事(1)		
11月					
後 期	12月	消費社会を生きる (10時間)	・経済社会のしくみを理解し、生活者の視点でお金を管理する基礎知識を学ぶ。 ・自立した消費者をめざし、よりよい消費のあり方、消費者問題とその解決について考えを深める。	・経済社会と消費生活(1) ・収入と支出の管理(2) ・消費者信用と家計管理(2) ・電子商取引と問題商法(2) ・消費者救済のしくみ(3) ・子どもの育つ環境と支援(2) ・子どもの権利(1) ・子どもの発達と生活(2)	
1月					
2月		子どもと生きる (5時間)	・子育て支援や子どもの成長過程についての基礎知識を学ぶ。		
2月	3月	人間らしく住む (6時間)	・住まいの役割と環境に配慮した住環境を考える。 ・高校卒業後の自立を目指して、生活教養を深める。	・住まいの役割(2) ・環境と住まい(1) ・一人暮らしの部屋探し(2) ・日本の伝統文化(1)	

2021年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース		教科担任												
情報	社会と情報	2	1年次		坂本 優樹												
使用教科書	数研出版 改訂版 高等学校 社会と情報				使用副教材												
科目の目標								道徳教育のねらい									
情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。								社会に生きていくうえの基礎となる善悪の判断力や主体的な態度を情報倫理を通して育てる。情報社会の特性やネットワークの特性の理解をすすめ、自分自身での的確な判断ができるようとする。									
市函D P (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)																	
学習活動内容		1 基礎力	2 思考力	3 主体的 学習力	4 傾聴力	5 自己理解・ 自己管理力	6 他者 理解力	7 計画 実行力	8 発信・ 表現力	9 ストレス コントロール力	10 実践力						
1 情報源と情報の検証			○														
2 情報の表現・伝達と発信		○	○														
3 アナログとデジタル		○	○							○							
4 インターネットの活用		○	○														
5 情報社会が人に及ぼす影響		○															
6 セキュリティ対策のための情報技術		○	○							○							
7 知的財産権		○	○														
8 コンピュータの構成		○	○														
9 デジタル情報の表現																	
10 プレゼン					○	○	○	○	○	○							
11 通信とその進展		○															
12 コンピュータネットワーク		○	○						○								
13 情報の伝達手段と表現形式			○						○	○							
14 通信の信頼性・IPアドレス・ドメイン		○		○													
15 wwwの仕組みとURL		○		○													
16 問題解決のプロセス			○	○				○		○							
17 データの分析			○	○				○		○							
18 グループワーク				○	◎	◎	◎		○	○							
19 課題提出				○				○	○	○							
20																	
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		知識・理解										
	情報や情報社会に関心を持ち、身の回りの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応する。		情報や情報社会における問題を解決するために、情報に関する科学的・論理的な考え方をいかし情報モラルを踏まえて、思考を深めている。		情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身につけ、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。		情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身につけ、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。										
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。																
	授業での取組		課題への取組		小テスト		レポートへの取組										
	関心・意欲・態度		○	○													
	思考・判断		◎		◎	◎											
	技能・表現		○	○													
	知識・理解		○	○	○	○											

# 社会と情報 授業計画

授業計画				実施状況		
	月(時数)	単元・考查等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	4	オリエンテーション 序編 情報とメディア 1章 情報とは 2章 メディアとは 3章 情報のデジタル化 4章 インターネットの活用	情報の収集、評価、判断が常に身近で行われていることを再認識させ、情報の受信時に配慮すべき事項を理解させる。	情報源と情報の検証 1 情報の表現・伝達と発信 1 アカウントデジタル 2		
	5	1編 1章 情報社会の光と影 2章 情報セキュリティの確保 3章 情報社会における法と個人の責任	情報社会の問題点を踏まえ、情報セキュリティを高めるため、暗号、コンピュータウイルス、サイバー攻撃などさまざまな具体例を学び、コンピュータのセキュリティ対策の方法を理解させる。	情報社会が人に及ぼす影響 5 セキュリティ対策のための情報技術 5 知的財産権 5		
	6	2編 1章 コンピュータの仕組み 2章 情報のデジタル表現 3章 情報の表現と伝達 4章 プレゼンとは	情報をデジタル化し処理する上で基礎となるコンピュータの基本的な仕組みを理解させる。 情報伝達メディアの性質を知り、情報をわかりやすく表現し効率的に伝達する。	コンピュータの構成 3 デジタル情報の表現 5 データの圧縮 2 情報の発信とメディア 4 プレゼンとは 5		
	8	3編 1章 コミュニケーション手段 2章 インターネットの仕組み	古代からの技術的な進歩を概観し、コミュニケーション手段の発達について理解させる。 情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルについて理解させる。 IPアドレス、ドメイン名、URLとDNSによるインターネットでのweb閲覧の原理を理解させる。	通信とその進展 3 マスコミュニケーション 4 コンピュータネットワーク 2 情報の伝達手段と表現形式 2 パケット通信 1 通信の信頼性 1 IPアドレスとドメイン名 1 WWWの仕組みとURL 1 電子メールの送受信の仕組み 1		
	9	4編 1章 情報システムと人間 2章 問題解決	情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して、問題を解決する方法を習得する。 数学的なデータ分析の基礎を理解し、表計算ソフトウェアを使って簡単な数学的データ処理や分析を行う。	問題解決のプロセス 6 データの分析 6 情報技術の発達と情報の爆発 ユーティリティコンピューティング 1 ユーティリティとアクセシビリティ 1 ユーバーサルデザイン 1		
	10					
	1					
	2					
	3					

2021年度 市立函館高等学校 シラバス (函館学)

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任													
総合	函館学	1	1年次・必修	1年次教員・外部講師													
使用教科書					使用副教材												
科 目 の 目 標										道徳教育のねらい							
国際性と進取の精神を持つ郷土函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について学ぶことで、豊かな教養を身に付けるとともに、社会における自己の役割を再認識し、地域の振興に向けて、自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決する資質や態度を育てる。										国際性と進取の精神を持つ郷土函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について学ぶことで、郷土を愛し、郷土の振興のために尽力する態度を養う。							
学習活動内容			市函D P (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)														
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
			基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・ 自己管理力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力					
1	函館学ガイド	◎				○											
2	函館学基調講演	○	○			◎											
3	地域探究学習(学校外の学修)		○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	◎					
4	函館学講座		◎	◎	◎	○	○	○		◎							
5	函館学振り返り講演	○				◎											
6	函館学の振り返り・まとめ	○				○	◎										
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断			技能・表現			知識・理解									
	郷土・函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について主体的に学んでいる。	地域の振興に向けて、地域課題を見つけ、よりよく解決する資質を身につけている。			地域課題の解決に向けて、グループワークなどでアイディアを出し合い考察し、その結果を他者にわかりやすく伝えていく。			地域と自分との関わりの中、課題解決に向けた取り組みや探究活動により、自己の在り方生き方を考えている。									
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。																
	授業への取り組み	課題への取り組み	グループワーク	自己評価・相互評価	発表内容		作品(レポート等)										
	関心・意欲・態度	◎	◎							◎							
	思考・判断		○	◎				◎	◎								
	技能・表現		○	◎				◎	◎	◎							
	知識・理解	○	◎					◎	◎	◎							

# 函館学 授業計画

授業計画					実施状況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	4	函館学ガイダンス（1）	函館学の意義や目標を理解させるとともに、生徒自身が自分の興味関心に従って自ら学習計画を立てられることをねらいとする。	・函館学ガイダンス（1）		
	5	函館学基調講演（3）	郷土函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について総合的に学ぶ。	・函館学基調講演（3）		
	6	地域探究学習（14） (学校外の学修)	選択した事業所において、地域のことと理解したり、研究したり、地域で奉仕活動したり、地域の人と触れあう機会の中で、伝統や文化に立脚した幅広い視野を持ち、志高く未来を創りだしていくために必要な資質・能力の育成を図る。	・地域探究学習（14） (学校外の学修)		
	9					
後期	10	函館学講座（7）	函館市役所出前講義及び民間の団体等の協力を得て函館に関わる講座を2回開講し、自分の興味関心に応じ、任意の講座を2つ選択し受講させる。学び得たことをレポートにまとめさせる。	・函館学講座（7）		
	11	函館学講座（7）		・函館学講座（7）		
	12					
	1	函館学振り返り講演（2）	郷土函館・道南圏の文学・歴史・文化・産業・地誌・人物・地域課題等について総合的に学んだことを振り返る。	・函館学振り返り講演（2）		
	2					
	3	函館学の振り返り・まとめ（1）	この一年間の学習を振り返り、函館の良さを再認識するとともに、生徒個々に今後の課題を意識させる。	・函館学の振り返り・まとめ（1）		

2021年度 市立函館高等学校 シラバス (函館学)

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任
総合	函館学	0~2	全年次・選択	探究部担当教員・外部講師
使用教科書				使用副教材

科目の目標

国際性と進取の精神を持つ郷土函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について学ぶことで、豊かな教養を身に付けるとともに、社会における自己の役割を再認識し、地域の振興に向けて、自ら課題を見つけて、よりよく問題を解決する資質や態度を育てる。

道徳教育のねらい

国際性と進取の精神を持つ郷土函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について学ぶことで、郷土を愛し、郷土の振興のために尽力する態度を養う。

市函DP(本校で身に付けさせたい10の資質・能力)

学習活動内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1 外部公開講座受講	◎	◎	◎	◎				○		◎
2 はこだて検定	◎	◎	◎					○		
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	郷土・函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について主体的に学んでいる。	地域課題に係わる活動に関心を持ち、公開講座やボランティア活動などへの参加を通じて、よりよく解決する資質を身につけていく。	地域課題の解決に向けた活動などにより、自分の学びを他者にわかりやすく伝えることができる。	地域と自分との関わりの中、課題解決に向けた活動などにより、自己的在り方生き方を考えることができる。

評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。				
	講座や活動への取り組み	地域課題への取り組み	報告レポート		
関心・意欲・態度	◎	◎	◎		
思考・判断	◎		◎		
技能・表現			◎		
知識・理解		◎	◎		

函館学（選択） 2019年度 開講講座等実績（2020年度は「はこだて検定」のみ）

授業計画				実施状況	
月 (時数)	開講講座	学習のねらい	学習内容	単元 実施 時数	実施反省
前	4 第1回函館てらこや 函館野外劇（リハーサル）	郷土函館・道南圏の「歴史」、「文化」、「産業」、「自然」、「人物」、「地域課題」等について総合的に学ぶ。	てらこや 地域の子ども達に学び・遊びの場を提供し、保護者・大人のボランティア・学生ボランティアが交流し地域を盛り上げていこうという活動を通じて、コミュニティのあり方や地域全体で行う子育て・教育のあり方について考える。		
	5 第2回函館てらこや 「はこだて海の教室～ロゴ制作講座」 函館野外劇（リハーサル）				
	6 第3回函館てらこや 第1回 CCH合同公開講座 『函館学2019』 函館野外劇（リハーサル） 函館書藝社展全員展 北海道書道展函館展		第1回 CCH合同公開講座 「ロシアにおける外国语教育の歴史と現在」		
	7 第4回函館てらこや 第2回 CCH合同公開講座 『函館学2019』 函館野外劇		第2回 CCH合同公開講座 「高付加価値新素材に生まれ変わるイカ墨」		
	8 CCH加盟校主催『函館学』講座 第5回函館てらこや 函館野外劇 函玄社書道展		CCH加盟校主催『函館学』講座 「水中カメラを使った魚の観察」 「モジュールな生き物、海藻の世界を探検する」		
	9 CCH加盟校主催『函館学』講座 第6回函館てらこや		CCH加盟校主催『函館学』講座 「ウニは時々悪いことをするけど、基本的にはいい奴」		
	10 第7回函館てらこや 第3回 CCH合同公開講座 『函館学2019』 函館書藝社展会友・公募展		第3回 CCH合同公開講座 「化石から探る道南の森林の歴史」		
	11 アカデミックリンク2019 CCH合同研究発表会 はこだて検定 第8回函館てらこや 金子鷗亭 川端文学株文集展				
	12 地域創生政策アイデアコンテスト 第9回函館てらこや				
	1 第10回函館てらこや				
後	2 第11回函館てらこや 高文連高校生の書展 アカデミックリンク2019 CCH合同研究発表会 ハコダテ シェスタ編				
	3 第12回函館てらこや				

函館学(選択)は『函館学ニュース』で随時案内するため、年度により開講講座が異なることから、前年度の実施実績とする。

2021年度 市立函館高等学校 シラバス (総合的な探究の時間)

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任										
総合	総合的な探究の時間	1	1年次	1年次教員										
使用教科書						使用副教材								
科目の目標							道徳教育のねらい							
自己と向き合い、よりより生活や社会の在り方を意識し、その実現に向けて自ら考え行動する態度を育てる。(探究の意義や価値の理解) また、情報や知識の活用法を学び、論理的に思考する能力の育成をはかり、言語により正しく表現する能力を高める。(探究的思考の手法と言語表現法の修得) さらに、他者との意見の共有をはかり、物事を多角的視点でとらえることの重要性を理解し、互いに認め合いながら協働する能力を育む。(他者理解と協働)							進路学習活動を通して自己理解を深め、主体的に目標に向かう意欲と態度を育む。 また、他者理解や他者との協働意識を深める中で、価値観の多様化が進む現代社会において主体的に判断し行動する能力を育てる。							
市函D P (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)														
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力			
1	学問系統研究	◎		◎		◎	○	○						
2	講演会	○	◎	○	◎									
3	出前講義		◎		◎	◎								
4	課題研究発表会見学				◎		◎							
5	未来大訪問	○		○	○		◎							
6	小論文	◎	◎	○	○	○		○	○					
7	探究・函館学まとめ	○				◎		◎						
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
評価の観点	関心・意欲・態度	知識・理解・技能			思考・判断			表現・発表						
	自己と向き合い、社会に目を向け、今後の在り方について意識を高めている。 探究的活動において、探究の意義や価値を理解して取り組んでいる。	講演会や講義、大学の見学において、そのねらいと内容を理解している。 探究的活動において、課題を理解し、情報や知識の整理・分析方法を身につけている。また、情報に関わるルールを守って正しく活用している。			自己理解を深め、自らの将来に向けて必要な情報を活用し、考えている。 探究課題について、根拠に基づき、多角的視点を持って自らの考えをまとめている。			探究的活動において、自分の考えを小論文で表現できている。 他者の考えに触れ、価値観の違いや多様性を受け入れ認めている。						
次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。														
評価の方法	授業への取り組み	各種レポート	各種ワークシート	小論文	グループワーク	課題提出状況								
	関心・意欲・態度	◎	○	○	○					◎				
	知識・理解		◎	◎										
	思考・判断		◎		◎									
	表現・発表			◎	◎	◎				○				

# 総合的な探究の時間 授業計画

授業計画				実施状況	
月 (時数)	単元・考查等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前 期	4 5	学問系統研究（7）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人講話や学問調べ学習を通じて自己理解を深め、広い視野で進路を考える。</li> <li>・資料の活用法や情報の取捨選択ができる力を身につけ、主体的に進路を考える力を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション（1）</li> <li>・社会人講話（2）</li> <li>・学問調べI・II・III（3）</li> <li>・調べ学習発表会（1）</li> </ul>	
	6	講演会（3） 出前講義（3）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の第一線で活躍する方の講演を聞き、視野を広げ、多様な生き方があることを知る。</li> <li>・大学講師や職業人による専門分野の講義を受け、自分の興味関心を深め将来について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会（3）</li> <li>・出前講義（3）</li> </ul>	
	9	課題研究発表会見学（1）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次生の発表を見学し、本校の「課題研究」の在り方を理解する。</li> <li>・発表内容を聞き内容を理解する力と自分自身の学びにつなげる力を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究発表会見学（1）</li> </ul>	
後 期	10	未来大訪問（4）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来大を訪問し、大学とは何かを学ぶ。</li> <li>・未来大の特徴であるプロジェクト学習を見学し説明を聞くことで、大学における研究活動の意義を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来大訪問（4）</li> </ul>	
	10 11 12 1 2	小論文（16）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究的学習のプロセス（課題の設定、情報整理・分析・まとめと表現）とその手法を理解し、学びを深める力を付ける。</li> <li>・小論文の書き方を学び自らの考えを論文の形にまとめてることで、論理的な思考や表現の力を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の設定I・II（3）</li> <li>・論の構築I II（3）</li> <li>・小論文記述指導I～IV（5）</li> <li>・小論文クラス発表会I・II（2）</li> <li>・小論文年次発表会（1）</li> </ul>	
	3	ポートフォリオ（1）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間の学習内容を振り返り、学習の成果をeポートフォリオに記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオ（1）</li> </ul>	